

明石公園における淡水性カメ類の生息状況

倉本識・村田未来・増田彩花・小林建太・山本美咲

657-0804 神戸市灘区域の下通1-5-1 兵庫県立神戸高等学校

The records of the freshwater turtles in Akashi Park in 2016.

By Shu KURAMOTO, Miku MURATA, Ayaka MASUDA, Kenta KOBAYASHI and Misaki YAMAMOTO

Hyogo prefectural KOBE high school, 1-5-1,Shironoshitadori, Nada, Kobe, Hyogo, 657-0804, Japan.

明石公園(兵庫県明石市)にて淡水ガメ類の調査を実施したので、報告する。調査は捕獲罠による捕獲調査と産卵巣の探索調査を実施した。

捕獲調査は2016年6月22日から9月10日にかけて実施した。明石公園内の5つのため池で罠を設置し、1つのため池につき1回の調査で1個の罠を設置した(図1)。罠は罠内に誘引用の餌(アジやサバなどの魚)を入れて、設置した翌日に回収した。5つのため池で捕獲された淡水ガメ類は、合計128匹であった。種別に示すと、アカミミガメ97匹、クサガメ31匹で、アカミミガメが全体の75.8%を占め、スッポンとニホンイシガメは確認されなかった。各ため池で捕獲された調査日ごとの

個体数を表1に示す。いずれのため池もアカミミガメが優占した。1回の調査に捕獲されたアカミミガメの個体数の平均は、剛ノ池アカミミガメ4.2匹、クサガメ1.0匹、ひぐらし池アカミミガメ4.8匹、クサガメ1.4匹、藤見池アカミミガメ6.4匹、クサガメ1.4匹、桜堀(西)アカミミガメ1.2匹、クサガメ0.8匹、桜堀(東)アカミミガメ0.8匹、クサガメ1.6匹となった。相対的に剛ノ池、ひぐらし池及び藤見池ではアカミミガメが多く捕獲され、この3つの池はアカミミガメの密度が高いことがわかった。

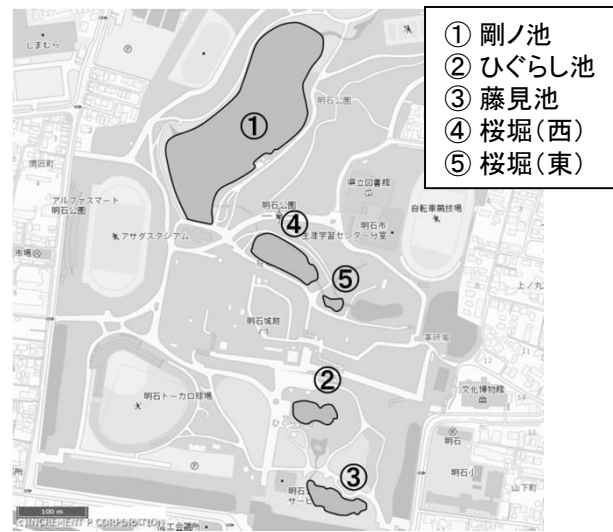


図1. 明石公園内のため池5カ所

表1. 明石公園内のため池における調査日ごとの淡水ガメ捕獲個体数

ため池	6月22日		7月17日		8月14日		8月17日		9月10日		合計	
	アカ	クサ	アカ	クサ	アカ	クサ	アカ	クサ	アカ	クサ	アカ	クサ
① 剛ノ池	3	0	7	1	4	2	5	2	2	0	21	5
② ひぐらし池	3	1	4	1	9	3	4	2	4	0	24	7
③ 藤見池	5	0	6	2	12	4	7	1	2	0	32	7
④ 桜堀(西)	1	0	2	0	2	1	1	2	0	1	6	4
⑤ 桜堀(東)	1	0	3	1	5	5	2	2	3	0	14	8
計	13	1	22	5	32	15	19	9	11	1	97	31



図2. 淡水ガメが産卵のために掘ったと思われる穴や卵殻が散乱した産卵巣(2016年6月22日撮影)

産卵巣の探索調査は、2016年6月22日及び8月14日に実施した。探索は、桜堀周辺で実施した。探索の結果、6月22日には淡水ガメが産卵のために掘ったと思われる穴や卵殻が散乱した箇所を合計18カ所確認した(図2)。これら穴や卵殻のみからでは、どの種の産卵巣であるかを特定することはできなかったが、捕獲調査により明石公園内のため池にはアカミガメが優占して生息することが明らかとなっているため、これら産卵巣の多くはアカミガメのものであると考えられる。また、卵殻が散乱した



図3. 明石公園内桜堀周辺で発見したアライグマの足跡(2016年8月14日撮影)

箇所は、何かに食害を受けたように見受けられた。8月14日には淡水ガメと思われる産卵巣は発見できなかったが、桜堀周辺でアライグマの足跡を確認した(図3)。明石公園周辺にはアライグマが侵入しており、6月22日に発見した卵殻が散乱した産卵巣はアライグマによって食害の被害を受けた可能性が考えられた。

明石公園は市民が身近な自然を感じられる場所であるにも関わらず、今回の調査によりアカミガメやアライグマなど北米原産の外来生物が生息することがわかった。今後も在来生物保全のために、継続的に調査を実施していきたい。

謝辞

本調査を行うにあたり神戸市立須磨海浜水族園の皆様にご指導ご協力いただきました。アライグマの同定には、兵庫県立大学の栗山武夫博士にご指導いただきました。この場を借りて御礼申し上げます。